

富士川

12月号

昭和44年12月25日

No.115

富士川町役場発行

富士川町岩淵121番地

電話 011111

町の人口

44.12.1現在	15,175人
男	7,475人
女	7,700人
世帯数	3,399世帯
(面積)	31.09km ²

印刷/望月印刷所 T&D0304



(写真 深沢 勇 提供)

除夜の鐘音が近づく今、町の一年を回想してみました。

正月●中川町長 青少年の人材育成を強調

●県下で初の試み 郡三町の連合消防団出初式(7日)

●成人式 一小体育館で挙行 オリンピック選手の華麗な体操演技に送られて 社会に巣立つ三五〇人(15日)

2月●富士川魂の総決起 富士川火力発電反対期成同盟会発足 3月●人海戦術四波 あるいは県庁へ あるいは富士市へ 29日午前0時半開催の富士市議会の非常識さが全国世論の指弾を浴びる

5月●上水道拡張工事完成 6月●役場機構改革 全課長異動 ●新議長に若月清氏 7月●二中プール完成 8月●木島出身の佐藤虎次郎氏 清水市長二期目就任 9月●岩淵駅を富士川駅に改名し ようと運動開始

10月●庵原地区選出の佐藤一郎氏 県議会議長に就任 ●葬式改善盛りあがる 11月●産業開発道路(県道バイパス)開設期成同盟会発足

12月●岩淵駅舎改築着工(5日) ●衆議院議員選挙(27日)

全国の焼死者 戦後最高の記録

異状乾燥火の元に注意

最近、表日本は異状乾燥が続き各地で火災がひん発、とくに焼死者の激増が目につきます。

自治省消防庁の調べによりますと、十二月十七日現在で千百九十二人と、戦後最高だった昨年の記録を早くも三十二人も上回っています。同庁の推定では、このままのペースが続けば、年末には死者は千二百人を越すという深刻な事態となっています。

十二月は、日本海側の地方を除いて、一般に空気が乾燥し、湿度が低くなるので、木材やその他の建物の可燃性の材料が内部まで乾燥

燥します。そのうえ、季節風が強くなり、火気の取扱いが多くなるので火災件数はもちろんのこと、大火の回数も多くなります。

プロパンガス、電気器具の取扱い、火の元に十分注意し、火災原因のトップを占めるタバコの吸いさらにはとくに念をいれてください。

町に消防署

庵原地区で

組合設置

庵原三町で消防組合をつくり、各町に消防署を設置して消防機能を

を常備化することになり、各町とも十二月定例議会にはかります

高圧ガス、石油類あるいは新建材の使用等により化学的消火、初期消火等近代的な消防力と、加えて激増する交通事故救急業務の処理のため、常備の職業消防組織が必要で、最近、急速に各自自治体の大きな課題となつてきています。

ところが、常時活動する消防署の設置は、町単位では財政的に困難です。

庵原地区三町は、すでに消防署を設置している蒲原町を含めた広域行政の問題として協議を進めて

三町消防団

連合出初式

一月七日一中校庭で

来春の三町消防団出初式は、一月七日午前九時、当町第一中学校庭で挙行されます。

出初式の合理化のため、昨年から連合体で実施されています。

当日、三町消防団は、ポンプ操法、規律訓練などを行なうほか花火を合図に豪快な全車両放水を展開します

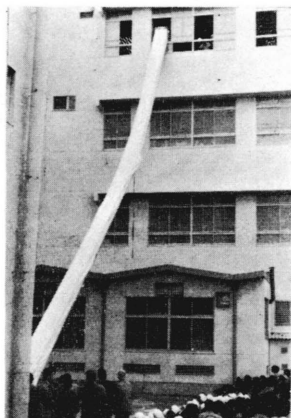


写真 三階から退避訓練

きたものです。なお、消防署の設置によって現在の消防団が減員されることはな

く、従来と同様、火災・風水害に対処します。(二月号で詳報)

飲酒運転は

絶対やめよう

県は、十二月十一日から一月十日までの年末・年始の間、県民総ぐるみで家庭・職域・地域のすべてにわたって、飲酒運転を追放する運動を展開します。

飲酒運転による重大悪質な交通事故があつたと絶たない現状をなんとか打開しようというもので、取締りも非常にきびしく、交通警察官が全力をあげて実施し、違反者は全員検挙する方針です。

飲酒運転は絶対やめましょう。■各家庭でお願いしたいこと

①自動車運転する人には酒を飲ませない。

②飲酒したときは自動車による外出は絶対にさせない。

③飲酒する会合等への出席は、自動車運転して行かない、行かせない。

■職域・地域でお願いしたいこと
①職場または各区・隣組では、飲酒運転追放集会等を開いて申し合わせする。

町婦人会 文化祭バザー収入を 幼稚園へ寄付

町婦人会(望月八代会長)は、十一月三日の町民文化祭に開いたバザーの収入で町内の三幼稚園に備品を贈りました。

幼稚園の希望備品の相違から、多少、配分額に差があります。

さくら台幼稚園 柱時計(電池)4台 二万円

第一幼稚園 大太鼓1三輪車1台 一万三千円

第二幼稚園 ビアニカ 5台 一万四千円

計四万七千円

町婦人会は、昨年も町立三保育園へバザー利益金を寄付していま

手 島 氏

一 小 六 年 生 全 員 に も

ア ル バ ム を 贈 る

昨年十二月の広報富士川で紹介しましたので記憶されている方もおられると思いますが……

東京在住の手島章氏は、十五年前から、第二小学校の六年生全員にアルバムを贈り続けてきていますが、ことは、さらに第一小学校六年生全員へも贈ってきました手島氏は、松野の小学校を卒業して上京し、東京生活五十年。千代田区でトラック事業を始めて三十四年目、区会議員として五期生会社を五つ経営し、鎌倉の材木座に幼稚園を開園して十余年になります。

手島章氏「故郷のなつかしさは年とともに加わります。せめて故郷とのつながりを、と続けさせていたいです。一小の皆さんにも、町の外に住み、美しい故郷を痛いほどなつかしがる人がいるということだけ知っていただければしあわせです。

ますます郷土が発展しますよう祈ってやみません」

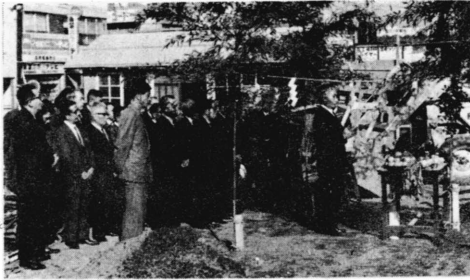
こうして愛のアルバムは一小へ一七〇冊、二小へ七七冊贈られま

した。

岩 淵 駅 舎

地 鎮 祭

岩淵駅舎の地鎮祭が十二月四日駅待合室隣地で、関係代表者を集めて挙行されました。完成は来年五月の予定。



功 友 会 発 足

役 員 決 め る

広報富士川11月号でお知らせした自治功労者の親睦団体、富士川町功友会は、十二月五日午後一時老人福祉センターで会員（該当者75名）四十数名出席のもと、第一回の総会を開き、規約と活動方針を定め、役員を決定、発足しました。

会 長

中川国兵

副 会 長

池谷孝太郎

常 任 幹 事

石川 均

会 計 監 事

若月 清・鈴木富治

顧 問

渡辺忠作・芦川利一

会 計 監 事

若月万作・望月亀歳

顧 問

若月幾太郎・花田平作・高岡文夫

顧 問

芦沢美之作

顧 問

望月儀一

顧 問

丸山彦之助

顧 問

秀村敏朗

県 警 察 官 募 集

蒲 原 署

■資格 昭和17年4月2日から27年4月1日までに生まれた男子
①大学卒業生、または45年3月までに卒業見込みの者
②短大および高校卒業生、または45年3月までに卒業見込みの者、ならびに同等の学力を有する者

■申込締切 45年1月31日

■採用 45年4月（予定）

（詳細については署へ）

選 挙 に つ い て

選挙というと地方に於てはその運動につき何時も話題となるのが戸別訪問の問題である。

この戸別訪問の解禁については政府そのものに賛否両論があった結局、結論の得られない従前のまま総選挙を迎えたわけだが、選挙に当って宣伝のため最も普遍的な形式である訪問を禁止しているのは世界にあまり類例を見ないことだそうである。

イギリスのこれに關したエクスパートは日本のこの措置について不思議がっているそうだが、これはその戸別訪問そのものに物品贈与とか金による買収とかの不純が

ともすると附随しかねない日本の現状から見て確かに妥当なことではあるが先進国などと対外的にこれに關してだけは言えない忸怩（じくじ）たる一例であろう。

わが国の選挙運動の歴史をふりかえて見るとそれは選挙運動の推進でも奨励でもなく間違った運動制限の歴史であると言える。あれをやつては悪い、これをやつてはいけないという制限的規制を指針としてその枠の中で運動をやっている私たちは実に哀れだ。

明るく正しい選挙を推進啓発する友の会の私も一員ではあるが実際に於てどうしたことをやればいいのか、具体的にはわかりかねて苦しんでいる。

結局、従来の運動の規制だけを普及させるだけでいいのであろう

か。

現在、ただ漠然としてではあるが政治不信の声を耳にする中にあって政治資金制度の根本的な改革がなされない限り、私たちがこの運動の底辺にあつて如何に献身的な努力をしようと無駄のような気がする。

公職選挙法の改正について当局のあまりにも消極的な態度もこうした私たちの末梢的運動の効果に少なからずブレーキをかけているように思える。

私たちはただ従来からの指針に従い有権者の一人一人に対して選挙法の規制を厳守し情実にかかわることなく良識を以てて自分の理想像、又はそれに近い人を選べと言うしかない。（原文のまま）

（坂下 甘露寺雄次郎）

当町への多額寄付者

齊 藤 氏 (坂下出身)

藍綬褒章受章



齊藤顕夫氏がこのほど藍綬褒章を受章しました。

齊藤氏(65歳)は、坂下区出身で、現在、東京で飲食業関係等の会社をいくつか経営し、全国喫茶環境衛生同業組合連合会長・全国喫茶業組合連合理事長等数多くの役職を占めて活躍、現在も当業界の指導的立場にあります。

坂下に住んでいた折、昭和二十二年から二十六年の間、町議会議員として町政に深い関心を示したこともあり、東京での多事多端な業務の内あって故郷の発展を見守ってきています。とくに、昭和三十年ごろからは、町教育・消防・福祉施設に惜しみなく寄付金を出し、その額は百数十万円に達

しています。

今回、飲食業界の発展に尽くされた功績をもって藍綬褒章を受賞したことにについては、町当局も直ちに祝意を表し、同氏の栄をたたえています。

祝 成 人

駅 伝 競 走

町体育協会(若月清会長)は、来年一月十五日(成人の日)に、——新成人者の前途を祝し、あわせて町民のスポーツの振興をはかる——ため、「祝成人駅伝競走大会」を左記により挙行政します。

区対抗で行なわれ、全長約十キロのコース(一小学校庭を起点に、小池とサービシエリヤを結ぶ上通り往復)六区間を各区の年令層別六選手が走ります。

新成人の前途を祝うにふさわしい行事です。沿道の方はもちろん広く皆さんの応援をお待ちします
■後援 町・町教委・町青年団
■日時 1月15日 10時40分(開

会式)11時出発

■走者区分 ①成人者 ②小学生

③30代 ④中学生 ⑤40

代以上 ⑥10代/20代

■ゼッケン番号 北松野1 南松

野2 木島3 舟山町4 上町

5 相生町6 坂下7 旭町8

川・堺9 新・四10 宮町11

小池12 幸町13 本一14 本三

四15 東一・二・日16

■各区チーム監督会議

1月10日午後6時半

■問合わせ先 役場会議室

役場内体協事務局

丸山博康

来 春

三百人が成人

式は一小で挙行政

当町第十九回成人式は、来年一月十五日、午前10時、第一小学校体育館で挙行政されます。

該当新成人(昭和24年1月16日から25年1月15日までに生まれた人)は、富士川地区二一〇人、松

野地区一〇三人合計三二三人(男一七二・女一四一)。これは住民票調査から得た数字で、実際には多少上回る見込です。

なお、当日、新成人を励ます行事として、町体育協会の主催する祝成人駅伝競走が行なわれます。

風 船 物 語

ことしの七歳祝は、十一月十八日、町婦人会(望月八代会長)主催で第一公民館に二四五人のよい子たちを集めて挙行政されましたが記念行事として一中校庭から大空に放された風船が神奈川県や千葉県にまでも飛んでいったことが、第二幼稚園に届いた二通の手紙で分り、話題となっています。

◆ ◆ ◆
第二幼稚園の深沢幸人ちゃんの手紙が千葉県の銚子近くまで、千頭和裕之ちゃんの風船は神奈川平塚市へ達し、二通の返事にみんな大喜びです。

当日、保育園児、幼稚園児の夢をのせて、手紙を結んだ風船が青空高く舞い上がり、やがてはるかなたへと消え去っていきましたが、ずいぶん遠方まで飛んだものですね。

幸人君への手紙

ゆきとくん、七ツ祝おめでとうふうせんは、ちばのはうまでとんできました。

スポーツカーのすきなゆきとくん、きつとげんきなあかるい少年でしょうね。

このふうせんのように、これか

らもあかるい、いい子になってくださいね。
大きくなったら、ちばのはうへあそびにきてくださいね。

さようなら

千葉県香取郡東庄町笹川 イ四

七一四 磯山工務店

千頭和君への手紙

風せんをありがとうございしました。庭の梅の木にひっかかっていました。元気で暮してください。

神奈川県平塚市真土一五五ノ七

高岡源二(市立大野小 四年)

直子(〃〃 二年)

夢の風船が子どもにどれほどよい思い出になることでしょう。

(北松野通信員 石川文彦)

◆ ◆ ◆
子どもの夢を託して、秋空高く三百の風船を上げたときは、その美しさに、思わず「ワァー」という歓声が一中運動場いっぱいに広がりました。

この催しは、今回で十六回目ですが、内容を変えてからは七回目です。

行事は、慣例であっても、一度ごとに何か新しいものを、それから、対象の心を受けるものでないと、忙しいこの時代に意味を失うと思います。

行事を行なったあと、必ずアンケートをとり、次の参考資料としています。(婦人会長望月八代)

所得 税

年 末 調 整

清水税務署

所得税は、確定申告による納税を原則としていますが、サラリーマンについては、給与の支払者が支払いのたびに、所得税を差引いて納める源泉徴収制度となっています。

そして、この十二月には、ことし一年間に源泉徴収された所得税を精算するための年末調整が行なわれます。これは、毎月の給与や賞与から源泉徴収された所得税の年間合計額と、一年間の給与の税額について納めなければならない本来の税額との差額を精算するものです。

年末調整が正しく行なわれるためには、その計算のもとになる扶養親族や保険料控除などを正しく申告する必要があります。

そこで、この年末調整について一般のサラリーマンが注意しなければならぬ点をお知らせします。

1 年の途中で扶養親族や控除対象配偶者などに異動があった場合には、遅くともことし最後の給与の支払を受ける日の前日までに、給与の支払者に申告します。

2 社会保険料、小規模企業共済掛金、生命保険料、損害保険料の控除は、年末調整のときに給与と所得から控除して年税額を計算することになっていきますので、該当者は、ことし最後の給与の支払を受ける日の前日までに給与と支払者に申告し、控除を受けてください。

3 年末調整の結果、納め過ぎていた分は還付され、不足分はことし最後の給与や賞与から源泉徴収されます。

4 ほとんどのサラリーマンについては、年末調整が行なわれますから、確定申告する必要はありません。が、ことしの主たる給与の収入金額が五百万円を超える人や、災害による徴収猶予や還付を受けた人、年の途中で退職した人などは、年末調整が行なわれませんので、確定申告（二月十六日から三月十六日まで）と

年 末 年 始 の た ば こ は

町 内 で 買 い ま し ょ う

で）をして税金の精算をすることになっています。

なお、雑損控除や医療費控除は、年末調整のときには控除されませんが確定申告をすれば控除を受けることができ、納め過ぎた税金は還付されます。

県 木 材 シ ョ ー

正 月 23 日 ~ 27 日

県としては初の、全国的にも注目される「一九七〇年静岡県木材ショー」が来春一月に開催されます。

県と木材関連団体が主催するもので、今から家を建てようとする人々、これから家具や木製品を買われる人々に木材の性質、木材の正しい使い方を十分知っていただき、木材の合理的な利用をすすめる展示会です。

工 業 統 計

調 査 始 ま る

通商産業省は、毎年12月31日現在で、製造業を営む全事業所を対象に工業統計調査を実施しています。

国や地方公共団体の行政施策等の基礎資料や民間企業の経営指針として各方面に広く利用される大切な統計です。

ことしは調査時期が迫り、すでに県から任命された調査員は、準備調査にはいり、来年一月本調査を始めます。

製造業経営者の皆様のご協力をお願いします。

なお、皆さんから提出された調査票は、統計法によって、その秘密は厳守され、とくに税金徴収の算定資料等、申告者に不利益となるようなことは一切ありません。

当町の調査員

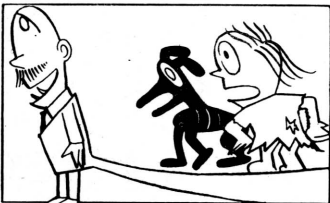
南・北松野・木島・岩淵地区

佐野正豊（役場職員）

中・郷地区村野幸三（〃）

なお、昨年の該当数は四十七事業所です。

43 三利太



人の流れ

(敬称略)

祝 結 婚

区 名	新 郎	新 婦	旧 姓
宮 町	若月 清	いと子	天野
宮 町	佐野勝一	初江	保坂
小 池	志村 盈	幸子	坂田
宮 町	森山国臣	由紀子	安藤
室 野	望月公吾	いつる	戸塚
相生	齋藤臣弘	幸枝	江藤
四十九	古木孝治	延子	高野
本 四	小峯正己	あや子	川村
木 島	望月 寿	博子	鈴木
宮 町	鈴木康弘	ひろ子	奥野山
東 二	執行恭司	春子	安藤
本 三	若月 晃	清美	稲葉
本 三	佐藤恵明	茂子	吉川
幸 町	佐藤由亘	和子	佐美
幸 町	伊藤高義	和子	白井
宮 町	若林正和	小夜子	遠藤
南 町	藤田重澄	ヤスコ	小松
八幡町	佐野信雄	静子	斎藤
南 町	天野 昇	初美	天野
富士見	加藤秀次	定子	稲葉
清水	宇佐美康之きよみ	小野	
清水	朝比奈栄樹	澄子	馬飼野
八幡	桐山庄司	則子	白井

祝 誕 生

区 名	氏 名	保護者	続柄
四十九	佐野佐和子	照夫	長女
東 一	安田佳奈子	斉治	二女
東 一	鈴木千景	辰夫	長女

宮 町	星 宏明	恵 長男
相生	山田真弓	肇 長女
宮 町	吉田直子	良男 二女
本 一	小笠原正和	正 長男
相生	加藤 誠	善久 二男
四十九	田中一衣	政夫 長女
清水	桐山秀隆	次郎 長男
大北	佐野明洋	和雄 長男
相生	望月敬子	保 長女
新 町	加藤洋子	寿男 長女
旭 町	長田孝洋	行雄 長男
幸 町	仲沢目樹	正雄 長男
南 町	清水浩二	敏秋 二男
相生	五味正樹	敏男 長男
南 町	望月 博	顯 二男
南 町	芦川有紀	忠次 長女
川 坂	小永井洋美	捷 長女
相生	入沢美由紀	昌和 長女
四十九	丸山統久	元一 二男
四十九	増田治生	久五郎 三男
中 沢	錦織億衛	務 長男
南 町	松下佳代	菊一 二女
儘 下	望月美祐紀	陽 長女
南 町	井出婦美	省吾 二女
大北	望月宏信	信太郎 長男

転 出 (結婚)

転出先

区 名	氏 名	転出先
新 町	佐藤国子	富士市
木 島	若月真理子	富士宮市
新 町	野沢美子	焼津市
小 池	佐藤典子	富士市
富士見	清水英代	千葉県
宮 町	山田康子	沼津市
上 町	斎藤民子	東京都

編 集 覚 書

■お詫び 前号「人の流れ」の日付10・20・11・19は9・20・10・20の間違い、訂正します。

■44年が終る。今までの積み重ねの上に、45年は見事、駆けつけ広報富士川を編集しよう。越し方一年を検討し終り、手にする忘年の杯

■役場は今、選挙のため、一週間早い大掃除。新春の足音しきり。町民皆さんのご多幸、心をこめて折る。 80・11・11

広報富士川 斎藤 博

富士川夜話

正月風景

氏 車 十

ささくれた利市とは無縁であるが、師走の富士がことさら美しい。利市は絶望と憤怒と不安とでよろめきながら帰路を辿っていた。

ようやく家のことを思い出すようになった。今朝の模様にあたり胸をえぐられる苦痛を感じた。家財道具らしいものも見当らぬ板の間、すべてをあきらめきった

お新の左右に二人のすすばれた子どもが取りすがっている。うつろな目とおびえる小さな目にいらだって投げた茶碗がびしりとお新の頭に当たったときは、さすがに利市も驚いたが、泣きわめく子どもたちの声に「勝手にしゃあがれ」と飛び出してきた。

「あ、畜生だ、犬畜生だ、鬼だ……、許しておくれ、悪いとうちやんだ」

こんど挽回したら、と賭けた目にまた見放された。

寒々とした正月だがお新の顔は明るい。

利市が深間に落ちたが、泥沼でなかったことが家族にきいわ

いした。

気の優しい、もともとと動機が妻と子のしあわせを考えて金をつかうとした利市である。借金の返済を思うと気が沈むが、古着の仕立直しを着て、柿の木の下で遊ぶ子どもたちの姿に、以前のなごやかな気分になりきることができた。

今年こそは、わき目もふらず、この子たちのために働きぬくぞ。本職の石工稼ぎで足りなかったらわらじ作りでもなんでもするんだ

利市の体に気迫がみなぎった。いろりを囲んで親子の図。みすばらしい食膳だが、暖かい火に照らされて、雑煮の椀を取りあげる小さい手に正月の喜びが映えていた。

利市は、お新の感謝のまなざしをうけてまごついたが、この平安な生活を二度と乱しはしまいと思う。お新の工面した濁酒が、じつとしみこむうまさだった。

「どれ、とうちゃんが一つ唄うからな、聞いてとれや」

山からとんできた

からすの子

里の正月で何見たらう

利市は、胸がいっぱいになってきた。涙をかくすためには、バカでかい笑い声をたてなければならなくなった。